

従業員向け	放課後等デイサービス評価表
-------	---------------

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		休憩室も確保されている
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		1日の流れが分かるようにホワイトボードで視覚化されている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		ダンスなど可能なスペースが活動室に確保されている
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		定期的に時間が確保されている
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		定期的に時間が確保されている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		PDCAサイクルと同様に申し送りの時間内で行っている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		職員の意見を集約し行われている
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		毎利用時に行っている

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		活動内での準備や日々の声掛けで自己決定を促している
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		

保護者向け

## 放課後等デイサービス評価表

(保護者の皆さまへ)

○本評価表は、放課後等デイサービスを利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	4			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1	1	2	・時々変動はあるかもしれないが、利用制限があるわけではないので、適切であると思う。 ・とても過ごしやすい環境だと思う。 ▶職員の人員配置（放課後等デイサービス）は利用者10名に対し2名が義務付けられております。ときぞうではより良い支援の提供を目指し、それ以上の職員配置とさせて頂いております。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	3			個人に合わせたものになっているかは分からない（工夫は色々されているか） ▶スケジュールの視覚化提示、季節を感じる為の壁画、施設のバリアフリー化など必要に応じて対応させて頂いております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	1			活動の中に掃除の時間もあつたりするので、いつも綺麗だなと思う。 天井や壁の作品や季節の飾りが常にあり楽しい空間だと思う。 ▶ありがとうございます。今後も清潔感のある心地よい空間を提供させて頂きます
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1	1	1	個々の特性に合わせてというのは、どこもとても難しいと思います。 ▶ご家族、相談員、学校などから頂いた情報を基に、出来る限り
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23			1	▶令和7年度より義務化された5領域支援について、ときぞうでの5領域の活動を提示させて頂きました。子ども達の様子はSNSで配信させて頂いておりますので是非ご覧ください。
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	23	1			▶個別支援計画作成は、ご家族から頂く自宅、学校での様子、ときぞう支援者によるときぞうでの様子を総合的に評価し、計画に取り入れ作成しております。今後も本人様中心の計画作成を実施させて頂きます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1			・子どもの事をよく理解してくれていると思う。 ▶ありがとうございます。これからも十分理解し支援させて頂きます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23			1	
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23			1	・お出掛けなど、野外での活動等も多く取り入れられている。 ・季節ごとの行事や工作など良く考えられていると思う。 ▶活動プログラムは日々、個別、小集団、集団のプログラム時間を設定し提供しております。固定化はしておりませんが、活動によっては、何度も繰り返し行う事で成長もありますので、頻度の多い活動もあります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	16	3		5	・地域の他の子どもとの活動は分かりませんが、同施設内での、高齢者や職員との交流があり、とても良いと思う。他事業所との交流は良くあり、そこの職員にも子どもを知ってもらえてありがたい。 ・他の児童デイとの交流があります。 ▶放課後児童クラブ、児童館との交流は実施しておりませんが、他事業所との交流、地域の子どもの食堂での地域の子どもとの関わりなど利用者には大きな負担にならないよう配慮しながら交流を行っております。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24					
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24					

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング ※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3	2	9	<p>▶ペアレント・トレーニングや研修会のような事は実施しておりませんが、研修会の情報提供はチラシ配布にてお伝えさせて頂いております。また、必要に応じて個別で、都度アドバイスさせて頂いております。次年度は研修会として実施出来るよう現在計画中です。</p>
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	22	2			<p>・子どものちょっとした変化や相談ごとを気にかけて下さった。  ▶ありがとうございます。今後も保護者様と話す機会を設け、共通理解し支援の参考にさせて頂き、良き支援が出来るよう務めさせて頂きます。</p>
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	4		1	<p>必要であれば(希望すれば)いつでも対応してもらえ、安心している。  ▶定期的な面談ではなく必要時、お話出来る事が大切であると考えております。いつでもお声掛け下さい。</p>
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	2			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	16	4		4	<p>・家族会、親も子ども楽しかったです。  ▶ありがとうございます。毎年、家族交流会を実施させて頂いております。今後も継続的に実施させて頂きますので、ご参加下さい。</p>
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	1		2	<p>▶子どもや保護者の方からの相談・ご要望については、日頃からお声掛けしやすい環境作りを心掛けております。また、相談の申し入れがあった際には、内容を職員間で共有し、迅速に対応する体制を整えております。今後も安心して御相談頂けるようより一層努めてまいります。</p>
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	3			<p>・何かあれば相談出来るし、それに対して配慮して下さる。</p>
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23			1	<p>▶SNS、法人ホームページにて発信させて頂いておりますので、是非ご覧下さい。</p>
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23	1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	1			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	23			1	<p>▶子ども参加型の避難訓練は年2回実施しております。また、職員のみ訓練も実施しております。実施した際はSNS等で発信しております。</p>
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23			1	<p>▶子どもの安全確保に関する計画については、ご家族へ周知を行い職員間でも内容を共有した上で支援にあたっております。今後も、安全を最優先にした支援が継続出来るよう、体制の確認と見直しを行ってまいります。</p>
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22			2	<p>▶事故や怪我が発生した際には、速やかに、ご家族へ連絡し、状況や対応内容について丁寧に説明するよう努めております。また、再発防止に向け職員間で情報共有を行い、安全な支援に繋がっております。</p>
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23	1			<p>・とても配慮して頂き、安心して通えています。  ▶ありがとうございます。これからも引き続き、安心出来る居場所作りをしてまいります。</p>
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	20	4			<p>・普段も、長期休暇も楽しみにしています。  ・長期休暇時の手作り昼食、おやつなど特に嬉しいようです。  ▶ありがとうございます。今後も楽しい活動を取り入れながら、子ども達が成長出来る事業所を目指してまいります。</p>
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	2			<p>▶今後も満足いただける支援が行えるよう職員一同、支援内容の充実と質の向上に取り組んでまいります。  何より子ども達が、ときぞうを卒業する時に成長を感じ、不安なく社会に出ていく事が出来るよう、『先を見て今を支援』させて頂</p>

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「放課後等デイサービス計画(個別支援計画)」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス すまいるステーションときぞう		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日	～	令和8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日	～	令和8年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	充実した支援プログラムの提供	1か月間の集団プログラムを作成し実施、評価を行い継続的に続ける事でスモールステップで『出来た』が増える支援の実施。 個別訓練・集団活動・個別活動を組み合わせた活動の提供。 長期休暇を利用した生活力、社会性の向上を取り入れた活動提供。	子どもの興味・関心や発達段階に応じたプログラムの選択肢を増やし、自主的に参加出来る活動内容を充実させる。 ご家族への活動フィードバックを丁寧に行い家庭との連携を深める。 活動後の振り返りを職員間で共有し、次回の支援内容に反映させる仕組みを整える。
2	個別支援計画に沿った支援提供	個別支援計画を職員全員が共有し、日々の支援や声掛けに一貫性を持たせている。 支援記録を基に定期的な振り返りを行い必要に応じて支援方法の見直しを行っている。 利用者の小さな変化や成長を見逃さず、成功体験として積み重ねられるよう意識して支援している。	個別支援計画の理解を深める為、ケース検討の機会を増やす。 アセスメントの質の向上を目的とした研修や情報共有を行い、よりの確な支援計画作成に繋げる。 本人・ご家族の意見をより反映出来るよう面談や聞き取りの機会を充実させる。
3	職員間の連携と支援会議の充実	日々の申し送りや記録を通して、子どもの状況や支援内容を職員間で共有している。 支援会議を定期的に行い支援の方向性や課題について意見交換を行っている。 誰でも意見を言いやすい環境設定を行っている。	支援会議の内容を記録として整理し、職員間で共有することで、支援方針の共通理解をより一層深める。 また、会議で出た意見や気づきを日々の支援に反映し、その成果や課題を次回会議で振り返る仕組みを整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム・研修会の実施	利用者支援が中心になってしまい、ご家族への支援の充実が出来ていない。 家族迎いの利用者家族へは、話す機会も多いが、送りの利用者家族に対しては不足している。	ご家族の参加しやすい日時を検討し、家族への勉強会を実施する。 家庭のニーズに応じたテーマ設定を行い、家庭支援プログラムの充実を図る。
2	父母の会・保護者会、きょうだい支援の実施	交流の機会は設けているが、参加者が限られる事があり、全ての家庭に十分行き届いてない現状がある。 きょうだい支援についても、実施回数や内容に偏りが生じている。	少人数や目的別の交流機会を設けるなど、参加しやすい形を工夫する。 きょうだい支援については、家庭の状況を把握しながら無理のない形での支援会議を検討していく。
3	地域との交流(放課後児童クラブ・児童館等)	地域との交流の必要性は認識しているが、感染症対策や調整の難しさにより、継続的な交流機会の確保が難しい状況がある。	地域資源との情報共有や関係づくりを進め、無理のない形で交流の機会を検討する。 子ども一人ひとりの特性や安全面に配慮しながら、段階的に地域交流を広げていく。